

研究分野のキーワード：倫理学，倫理思想史，近代哲学，現象学，人格

研究紹介

私は「倫理学」という学問を研究しています。「倫理学」と言われても、「倫理」という言葉はよく聞けけれど意味は曖昧にしか分からない、というかたが多いのではないのでしょうか。とくに「倫」という字は、あまり普段見かけない漢字ですので、意味がよく分からないですよ。

「倫」という字を見かけることが比較的多いのは、現代では人の名前においてではないかと思えます。たとえば福岡ソフトバンクホークスの松坂大輔選手の〈倫世〉夫人は、「ともよ」といいます。中日ドラゴンズの堂上〈直倫〉選手は、「な^ちおみち」ですよ。こうした読みかたにも示されているように、「倫」とは「とも」の「みち」のことです。「とも」とはつまり、ともに暮らし、ともに生きる「なかま」のことであり、「みち」とはそこから外れずに踏みしめて進むべきところ、「人の道」などと言われる場合のように「ルール」を意味します。

我が国を代表する和辻哲郎という倫理学者も、「倫理」という言葉に同じような説明を与えています。「倫」とは「なかま」であるとともに、そのなかまの「秩序」や「道」であって、「理」とは「すじ道」のことです。だから「倫理」とは、人間の共同態（なかま）の秩序や道理のことである、というわけです（和辻哲郎『人間の学としての倫理学』より）。

ここで「なかま」というのは、クラスや部活の「仲間」だけを意味するものではありません。みなさんのご家族も、ともに家族として暮らす「なかま」ですし、学校の先生も、ともに同じ学校生活を送る「なかま」と言えます。また電車で隣の席に座った面識のないお年寄りも、街で道を尋ねてきた外国人も、ともに同じ時代に生きる「なかま」と考えることができます。

「なかま」の違いに応じて、なかまのなかの「みち」、つまりルールも違ってきます。同じ部活の仲良しの友人に話すような口調で、学校の先生に話しかけたらルール違反でしょうし、電車で隣の席に座った面識のない人には、特別な事情がない限り、あまり親しげに話しかけたりしないのが、電車の乗客という「なかま」の「ルール」です。こうした「ルール」には法律やマナーも含まれますが、法律には書かれていないが、マナーよりは重い意味を持つ、「道徳」というルールもあります。「道徳」と「倫理」の違いは曖昧ですが、マナーも法律も道徳も、それが「なかま」の「みち」の一種であるかぎり、「倫理」に基づいていると言えます。

倫理学とはこうした「なかま」の「みち」を、「人間とは何か」や「本当の幸せとは何か」といった哲学的な問題の考察に基づいて、根本から明らかにしようとする学問です。私は「人格としての人間」という、ヨーロッパ由来の人間観を哲学的・思想史的に研究することを通じて、倫理の問題を自分なりに考えようとしています。倫理学は、はじめはとっつきにくく思えるでしょうが、決して日常生活と無縁な学問ではありません。むしろ倫理学を深く学ぶことで、これまで当たり前だと思っていた日常生活が、まったく別様に見えてくるようになるはずです。